教育旅行レポート

〝非日常の場〟に身を置き

武蔵高等学校中学校
対馬／鳴子地域
23年夏休み期間

加藤十握副校長

地域に学ぶ少人数の探究旅行
問題意識が価値ある体験生む

武蔵高等学校中学校（杉山剛士校長、東京都練馬区）は、創立から100年余りの歴史を持ち、政財官学の各界に多くの人材を輩出している。東京の私立男子校で多くの生徒が難関大学に進学する。2000年以降は、高校からの募集を停止し、完全な中高一貫となっている。生徒数は1学年約180人で、中高合わせて約千人が在籍する。

学年単位での校外宿泊行事は、中学では1年時に群馬県・赤城山にある学園寮で3泊4日の「山上学校」があり、グループ活動や共同生活を通じて互いを尊重し、協力する大切さを学ぶ。2年時には、3泊4日の民泊実習として、近年は群馬県みなかみ町の各所に分宿し、家業を体験、住民との交流を深めている。

高校には学年単位の校外宿泊行事はなく、いわゆる修学旅行も実施していないが、高校全学年が対象の自由選択科目「総合講座」（総合的な探究の時間）の中から、ユニークな「地域探究旅行」が実施されている。総合講座は大学のゼミのような授業。さまざまなテーマの講座が毎年度20ほど開設され、少人数で探究活動に取り組む。その中には地域がテーマの講座があり、夏休みなどに旅行が実施されている。

2023年度の総合講座では、国境の島を体験する「対馬」、現代社会の問題を考える「沖縄」、ドローンの免許取得を伴う「秋田」など、地域をテーマとする講座が開設され、現地実習として地域探究旅行が実施された。かつては、東日本大震災からの復興をテーマに東北の被災地に学ぶ講座もあった。事前学習、現地実習、事後学習、活動報告など、年間を通じて生徒が主体となって学ぶ。

23年度の「対馬」をテーマにした総合講座については、地元の受け入れ・コーディネート組織も活用。近年は、旅行商品や教育プログラムの企画、実施を担う対馬里山繋営塾と連携する。

対馬での生徒の研究テーマは、例えば、国の天然記念物のツシマヤマネコ、海浜の漂着ごみ、対馬固有の貴重な在来馬など。ツシマヤマネコの学習では、環境省対馬野生生物保護センターの環境学習プログラムを活用し、ヤマネコのふんの中身を調べ、生態を学んだ。

長崎県・対馬でツシマヤマネコのふんを調査

テーマに沿って学習（対馬）

は、生活文化の体験学習、地域交流を目的に、地域探究旅行が長崎県対馬市で実施された。期間は夏休みの4泊5日。参加者は1年生5人で担当教諭が同行。生徒が研究テーマを選び、現地で体験学習や聞き取りを行う。滞在中は、農山漁家への民泊で受け入れ家庭に分宿し、家業も体験する。

「対馬」の総合講座は、2004年にスタートした講座で、担当教諭が自ら築いた現地でのネットワークが基礎になっている。生徒の学習テーマ、聞き取りの相手の選定なども、教諭の知見、経験を基に生徒にアドバイスする。滞在中の現地手配については、地元の受け入れ家庭に分宿し、家業も体験する。

地元関係者への聞き取りを含め、ヤマネコと人の営みとの関係、保護に向けた課題などを考えた。

武蔵高等学校中学校の加藤十握副校長は「問題意識を持って地域を歩き、現地の人と交流する。地域探究旅行をきっかけに進路を決めた生徒もいる。当校には都市部に生まれ育った生徒が多く、地方の暮らしや文化に触れることは貴重な経験だ。将来、官公庁や企業で地域に向き合う仕事をする際、あの時のおじいさん、おばあさんの顔が思い浮かぶことがあるとしたら価値ある体験だったといえる」と話す。

また、同校は地域の現場に学ぶ学習として、総合講座の地域探究旅行から派生する形で、新たな自由参加旅行の企画にも取り組んだ。2023年度に鳴子地域探究旅行として、学習テーマに、自然と共生した脱炭素社会や地域循環共生圏の構築を設定。交流のある他校の高校生にも参加を呼び掛けた。

日程は夏休み期間の3泊4日で、他校の3人を含む生徒9人が参加。宮城県大崎市、山形県最上町の森林資源などを生かした再生可能エネルギー事業などを学んだ。日本の将来を見据えた地域の先進的な取り組みを現地に学ぶ機会として、自由参加旅行の今後の企画にも手応えを感じている。

鳴子地域探究旅行を企画した加藤副校長は、自治体やコーディネート組織と連携して旅行手配を行った経験などから、生徒と地域を結ぶ旅行機会の創出について提言。

「将来的には、学校旅行に限らず、地域が直接、旅行企画を生徒に提案できるとよい。生徒と地域が出会うきっかけとなるプラットフォームをつくり、生徒がもっと気軽に旅に出たくなる小回りのきく旅行企画を提案してほしい」と期待した。

宮城県・鳴子地域などの森に学ぶ

山形県最上町のチップボイラー施設を見学

大阪府立牧野高等学校
南九州方面
23年10月17～20日

梅崎奈美教諭

新山佳太教諭

高松智校長

大阪府の北西部、京都府に隣接するベッドタウンの中にある大阪府立牧野高等学校（大阪府枚方市）。のどかな田園地帯が広がっていた時代から、進学意欲のある地元の子どもたちが通学し、その多くを4年制大学へと送り出してきた地域に根差した高校だ。生徒は総じて学業はもちろん体育祭や学校祭、クラブ活動にも一生懸命。「真面目で素直な生徒が多い」と高松智校長は話す。

同校ではこれまで、北海道、東北、沖縄などさまざまな方面で修学旅行を行っており、昨年は熊本での修学旅行を実施した。一番の目的は防災学習だ。修学旅行の行き先や方針を決めたのは1年生の学年立ち上げの時。

震災ミュージアムの見学

事前学習で防災意識高め
被災地での学びに意欲

「災害を経験しないのが一番だが、日本は地震大国。震災遺構を訪れ、被災地で五感を使って学ぶことは、旅先で学ぶ修学旅行だからこそできることと考えた」と学年主任の新山佳太教諭。生徒たちは5年前、小学6年生の時に北摂地震を経験し、時は新型コロナ禍が続いているものの、高校生での被災地訪問は、改めて感じられることや気づき、学びがあるとして、梅崎奈美教諭が主に担当となって旅行を計画した。

当初、防災学習の候補地としては熊本と東北が挙がったが、行き先検討との教諭側の思いを込めるのも決め手となった。

2023年の修学旅行は10月17～20日に3泊4日で実施。初日は新幹線で熊本に入り、そのまま南阿蘇へ移動して防災学習に取り組むコース。

「伝えたい、学んでほしいのはまずは防災なのだ」との教諭側の思いを込めて、初日とした」と新山教諭。2日目はクラス単位でのミカン狩りや牧場体験の後、鹿児島・霧島に移動。3日目は7コースに分かれ、宮崎、熊本、鹿児島で田舎料理や砂蒸し風呂、漁業体験のほか、フィールドアスレチックなどを楽しんだ。4日目は鹿児島で、防災学習の一環として桜島の溶岩展望所を訪れたのち、市内散策を行った。

旅行目的の第一に防災学習を掲げたことから、事前学習でも注力。2年生の総合的な探究学習の時間は防災学習を中心に取り組んだ。新山教諭は「生徒たちは素直でやさしく良いところが多いものの、今の子どもたちの傾向なのか、自分のこと以外には無関心であると感じることが正直あった。そこで防災学習をきっかけに、常に自分でアンテナを張って何かに気付けるようになってほしいとの思いもあった」と話す。

同校では枚方市のハザードマップを取り寄せ、今、災害が起きたら、自分のいる場所は安全なのかどうかを考えることからスタート。その後、九州を訪れることをイメージして、火山の噴火や豪雨、津波、地震などのテーマごとにグループに分かれ探究学習に取り組んだ。旅行前には、大阪で災害が発生したらどの程度の被害が想定されるのか、どんな備えが必要なのかなどをまとめ、グループごとに発表した。

このほか阪神淡路大震災の語り部を招いての防災講演会や、希望者を募って夏休み中に京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー（京都府宇治市）への見学会なども行った上で、修学旅行に臨んだ。

旅行初日の防災学習では、崩落した旧阿蘇大橋の橋げたと新阿蘇大橋を望める数鹿流（すがる）崩之碑展望所、旧東海大学阿蘇キャンパス、熊本地震震災ミュージアム中核拠点の3カ所を2、3クラスずつ見学。それぞれの場所でガイドから説明を受けた。地割れや新阿蘇大橋の崩落現場は生徒らの関心も高く、真剣な様子で現場をのぞき込む姿が多く見られた。

「ただ楽しく写真を取ったりするだけではなく、学び取ろうという意識や興味を持って臨んでいる姿勢を感じた」と新山教諭は述懐する。最終日の鹿児島では、偶然、桜島の噴火に遭遇し、火山の威力や火山灰の影響なども体験できたという。

今回の旅行の成果について新山教諭は、防災学習時の生徒たちの真剣な姿や、指示がなくても荷物運びを手伝うなどの行動をとる姿を挙げた。

「生徒たちには旅行前に、『これまで学んできたことを確認する場としての修学旅行であり、集大成としての姿を見せてほしい』と話した。それに応える形で旅行中は常にアンテナを張って動いてくれたし、その姿勢は旅行後の日常にも根付いていると感じている」（新山教諭）。

予算という公立高校ならではの制約がある中、最大限の成果を得られた今回の旅行。梅崎教諭は、バスガイドによる地元愛あふれる案内に、生徒が積極的に参加して楽しんでいたことを印象的な出来事として紹介。その上で、「今回はコロナ禍などを理由に民泊は断念したが、受け身になりがちな生徒たちにとっては、民泊で少人数での自由な交流ができればより良かったと思う」と語った。

桜島の見学

3日目には桜島が噴火

震災学習の事前学習

Okinawa Educational Trip

【お問合せ先】
一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー　教育旅行チーム
＜TEL＞　沖縄本社：(098) 859−6129
東京事務所：(03) 5220−5311
＜共通 E-mail＞　shuryo@ocvb.or.jp

おきなわ修学旅行ナビ
旅行会社や教職員のための修学旅行専門サイト

沖縄で体験するSDGs
学びの宝庫沖縄では、これまで沖縄修学旅行で定番であった「平和学習」、「自然」、「歴史・文化」に加え、「国際交流」、「探究学習」「SDGs」といった学校関係者の新たなニーズに対応したプログラムが体験できます。

◀「SDGs」プログラムはこちら

充実した専門サイト『おきなわ修学旅行ナビ』
『おきなわ修学旅行ナビ』では、学習カテゴリ別でのプログラム検索や、沖縄修学旅行実施校による事例紹介など、旅行会社や教職員のための情報が満載！沖縄修学旅行に関する最新情報は、『おきなわ修学旅行ナビ』よりご確認ください♪

沖縄県　OCVB　SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。